

2009年記録会は4月12日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!

2009年記録会は5月17日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!

日本は狭くて飛ばす所が少ないのに、何故滞空競技一辺倒なのでしょう。ライトプレーンから始まって大型ゴム動力機まで1~3分マックスの滞空競技しかないのは何故ですか。日本でもピーナツスケールは結構盛んなのに、不思議なことにフリーフライト委員会にはスケールモデルの代表者がいません。FF委員会はもともとJMA会員の組織であり、フリフライトの各クラブの上部組織ではありませんが、それにしても片手落ちのようにも思えます。

普段の公園では1分飛ばすのも難しい環境ですのに滞空競技機主流の「日本模型界の怪」ですかね。日本よりは飛行場に恵まれている欧米では、スケールモデルが随分と盛んです。

追記:6月の平城京大会で私提案のスケール競技をしてくれる由、うれしい。こうなると後2月、せっせとスケール機の製作に励めねば……

記録会報告	09年2月記録会HLG/PLG、	09年3月記録会HLG/PLG、
お知らせ	平城京LP大会案内	
FFサロン	韓国製FF機の紹介 突然のライトプレーン	HLGフライオフ方式の提案 公園用ファイゼラ・シュトルヒの製作2
雑談天国	水の話	
編集後記		

## 2009年2記録会の結果(HLG/CLG)

### 2月HLG記録会報告

相沢、平尾……

松伏での記録会も3回目になりました。多少は環境にもなれて、しだいに発航場所も決まってヒコーキの飛ばす方向や田んぼにもなれて回収うまくなってきました。大宮田んぼより狭いですが、HLGを飛ばすには十分な環境と言えましょう。しかし、フライオフになって1分以上の飛行となると、ほぼ場外となって回収のテクニックが生きてきます。参加者は大宮田んぼよりは減少気味ですが、新しい選手が入ったの効果は感じられます。この日は後半になってサーマルが出始め、飛び過ぎや池ポチャがあり回収に苦労してました。

坪井選手が競技に慣れたのか最近好調で、7ラウンドで300秒、パワーがあるのでコワイ。UHLGは大型化が進み今回野中選手が中型グライダー相当の重量240g、スパン140cmのUHLGを持参し飛ばしていた。これほど大きいとさすがに高度は取らないが、上がると降りてこないの1分はラクに飛んで5ラウンドで300秒、しかし240gはさすがに重く回転投げでないと投げられないでしょう。又、春山選手は新作の105cmの綺麗な機体を投げてました。無理をしない回転投げで綺麗に高度を取り7ラウンドで300秒。この日の吉田選手はバラツキが無く8ラウンドで300秒、それとし苦心惨憺10投して300秒の5人がフライオフに進出。

石井満選手はもうチョイのところ300秒を逃した。機体が軽すぎるのでは……。斉藤浩選手は好調ながら300秒ならず。三田選手は6ラウンドで4マックスまで行きながらもう一つとどかず。以下省略

ながら、この日は全員が220秒超は立派。さて、フライオフの方は……

この日5人のフライオフとなって、池を嫌って選手は場所を東に移して1発勝負で発航。最初に春山選手がスタート、軽いサールに乗っていたので、それを見て私も発航。しばらく2機とも高度30メートルあたりを旋回していたが、私の機体が徐々に高度を取り始め300メートル程の高さ取って西北西に飛行、12分程見えていたが上空視界没でした。私は回収に走り、この後の勝負はみていない。

後日談、3週間ほどたって電話があり、松伏公園から6km程離れたかすかべ湯元温泉近くの農家の裏で発見されたとのこと。3月15日の競技の後、菓子折と模型飛行機のキットを持参の上取りに伺いました。機体は全く損傷もなく無事回収しました。幸運、幸運……。

**2月HLG記録** 2月15日松伏公園、晴、7度、北風0～4m、60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	平尾寿康	60	48	60	38	60	46	37	60	45	60	300	300		600
2	坪井 実	54	60	60	60	60	48	60				300	93		393
3	野中正治	60	60	60	60	60						300	90		290
4	春山清夫	58	60	60	60	60	49	60				300	77		377
5	吉田利徳	33	60	57	60	52	60	60	60			300	40		340
6	石井 満	53	30	55	60	52	60	60	60	54	51	295			295
7	斉藤 浩	43	43	60	60	53	47	60	60			293			293
8	三田祐一	60	60	51	60	51	60	45	43	45	43	291			291
9	斉藤勝夫	22	39	42	54	33	06	47	32	60	56	259			259
10	稲葉 元	31	28	38	13	47	36	60	36	48	60	253			253
11	三俣 豊	30	51	50	60	21	31	34	37	32	47	245			245
12	相沢泰男	60	38	51	35	22	46	43	34	27	28	238			238
13	石井明里	24	36	44	58	46	29	05	28	42	35	228			228

**2月PLG記録会報告**

河田(平尾)……

グリーンパークに久々に8人も集まりました。今日の気象は上昇よりも下降気流が強かった様です。

FOに残ったのは連勝の意気込みを漲らせた工藤さん、初FOの松戸の吉本さん、平尾さんの口撃に意気消沈して、成績がイマイチの河田の3人でした。第1FO60秒MAX.で河田は51秒、第2FOに進めない諦めていましたが、他の二人が潰れて優勝が転がりこんできました。2位はコンスタントの力を発揮する工藤さん、3位の吉本さんは力をつけて来ました。4位の重い倉田号は1秒落ち、サーマルをうまく捕まえていました。優勝経験のある5、6位の斉藤さん、原さんは3MAX.二人とも次回優勝を誓っていました。佐藤さんの無尾翼機は以前よりも高度が上がっているようでした。3月記録会の場所は本日の参加者の総意でグリーンパークに決めました。以上河田

**2月PLG記録** 2.1.2.15, グリーンパーク、晴れのち曇、風速1～3m/s、40秒MAX.

N	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	小計	FO	総計
1	河田 健	31	M	39	M	30	M	M	M			200	23/51	251
2	工藤陽久	34	38	M	38	35	M	M	M	M		200	41/48	248
3	吉本凌一	21	M	6	35	M	M	M	M			200	20/11	220
4	倉田泰蔵	M	29	39	M	22	M	30	34	27	M	199		
5	斉藤竹彦	34	30	M	M	36	34	39	M	32	30	195		

6	原 国光	35	24	29	37	M	2	M	31	25	M	192		
7	中野志郎	28	16	26	20	37	15	M	M	20	35	180		
8	佐藤幸男	24	18	38	26	29	24	29	20	30	37	160		

## 2009年3記録会の結果(HLG / CLG)

### 3月HLG記録会報告

平尾……

競技場に着くと足場も連日の雨のわりにはジクジクでなく、結構な北西の風で寒い。8時半頃には10人ほどが集まって練習開始、そして予定通り9時から11時の2時間内で5 / 10投の競技開始となりました。風は弱まらず1度飛ばすと回収が大変です。特にUHLGは風があると投げにくいので、この日は野球投げが有利ですがどうですか。競技が終わってみると機体の破損や田んぼ越えの機体も出て回収困難で、10投こなしした選手はわずかに1人のみでした。

勝負の方は、石井満選手が2機づつのまとめ投げをし回数を稼ぎ、作戦勝ちの優勝。吉田選手はただ1人10投を達成しての2位は、まだまだ若い。HLGにもすっかり慣れて好調を維持している坪井選手は7投まで頑張り3位は、そろそろ優勝がチラチラしだした。4位は平尾は5ラウンドのマックスでまたまた上空視界没、

1週間後3km先の松伏工業団地倉庫に激突して落下した模様で嬉しいことに連絡があり、少し翼がやられていたが、煎餅を持参し無事回収した。6位は斉藤パパ、皆勤賞だが、この風の中200秒は立派なもの。7位の稲葉の元ちゃんは何故か4投のみは寂しいが、回収難からかな。遅れてきた宮辺氏と久保氏の両選手は、UHLGで共に風で手こずり8位と9位、新進の斉藤浩選手は今回やる気無く2投のみで10位、三俣選手は風に恐れをなして0秒でした。

松伏の飛行場はまだ慣れてないせいもあるが、周囲が人家なので、風が吹くと回収が難しい。これまでのところ、現地の雰囲気は良好(我々がそう思っているだけ…)で、散歩がてらの見学者はチラホラあって、なるべくHLGについて懇切丁寧な説明を心がけている。HLGは見てくれが簡便そうなので、カワイイ印象が強く「そんなに面白いものかね」と意外そうであった。

### 3月HLG記録 3月15日松伏公園、9～11時、晴、12度、風3～6m 60秒MAX 5 / 10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	石井 満	37	60	58	60	60	47	60	54			288			288
2	吉田利徳	60	31	08	41	60	27	38	60	27	38	256			256
3	坪井 実	25	60	07	14	53	56	60				254			254
4	平尾寿康	41	34	44	60	60						239			239
5	相沢泰男	30	28	60	36	38	58	34				226			226
6	斉藤勝夫	44	54	58	27	39						222			222
7	稲葉 元	60	60	35	40							195			195
8	宮辺康治	04	05	19	22	31						81			81
9	久保晃英	39	19	15								72			72
10	斉藤 浩	31	30									61			61
11	三俣 豊											0			0

### 3月PLG記録会報告

河田……

風が強くグリーンパーク特有の下降気流にたたき落とされて壊れる機体が多く見られました。フラ

イオフで河田が1位、ボヤキながら5MAXを出した斉藤さんが2位、4MAX、3秒落ちの原さん残念ながら3位。工藤さん吉本さん今日は気流を敵にして3MAX、次回はその対策をしたフライトを見せてください。勝山さんの無尾翼機は気流に揉まれながら頑張っていました。

3月PLG記録 3月15日グリーンパーク 曇り3度 風1~4m風 40秒MAX 5/10投

NO	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	小計	F1	合計
1	河田 健	M	M	39	29	M	M	M				200	60	260
2	斉藤竹彦	18	28	24	M	M	34	M	M	M		200	48/37	248
3	原 国光	27	32	20	M	27	M	M	M	32	37	197		197
4	工藤陽久	28	M	M	34	24	27	38	33	12	M	192		192
5	吉本凌一	31	30	M	M	32	27	29	17	30	M	183		183
6	倉田泰蔵	24	28	22	35	M	32	31	30	39	35	181		181
7	中野志郎	13	18	13	27	22	32	31	31	M	27	161		161
8	勝山 彊	18	19	36	10	14	28	30	15	16	26	157		157

2009年寒中杯・HLGの部・報告

例年大宮田んぼで行われていた寒中杯は、大宮田んぼが使えなくなったので今年からグリーンパークでの開催となりました。競技種目も小型機に限定されてライトプレーン、ミニクーブ+P-50、HLG-Bの3種目になりました。競技日は最初2月8日でしたが強風の為順延、11日(祭日)に変更になりました。11日は幸いにして曇天ながら風弱く絶好のヒコーキ日和となり、全て順調に進んで無事競技は完了しました。しかし、今回はHLG-Bのみの報告です。

HLG-Bはスパン36センチ以下の小型HLGで、この大きさと紙とも性能的に差が少ないと思います。この日サーマルが解りにくく、肩のイイ順+気流の読みで上位が決まりました。しかも、ラウンド制なので記録をそろえるのが難しい。結局は肩のイイ選手どおしの戦いとなり、ロートルは残念ながらお呼びでなかった。

稲葉選手はねらい通りの優勝、2位は高度抜群の新進の斉藤浩選手、3位はガタイは小ぶりながら肩のイイ、これもグリーンパーク初登場の坪井選手と、ここまで波乱なし。次に紙の石山選手が意地見せて4位に付けた。同じく同点4位に腰が悪いと自称する井村選手、6位に三俣選手、7位池田選手と何だかイイ肩の順みたい…。この日のマックスは12ケのみなので公園での気流の悪さと、やはりスパン36センチ以下では60秒は難しい。

09年寒中杯HLG記録 2月11日グリーンパーク 曇り 3度 風1~2m 60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1		R2		R3		R4		R5		合計	F1	F2	総計
1	稲葉 元	48	60	60		32	60	35	42	60		274			274
2	斉藤 浩	60		42	38	60		34	60	17	34	256			256
3	坪井 実	55	58	34	37	60		35	38	21	60	253			253
4	石山芳彦	34	44	32	54	33	45	35	37	38	45	225			225
4	井村真三	38	60	32	11	60		23	32	21	41	225			225
6	三俣 豊	28	27	48	32	60		34	31	19	28	198			198
7	池田 昇	21	35	30	11	36	30	29	27	60		190			190
8	今関健一	17	26	25	60	16	30	39	14	15	27	182			182

9	平尾寿康	23	35	41	37	33	29	24	25	20	32	166			166
10	小林雅文	28	23	28	20	27	35	32	18	12	41	164			164
11	星野 聡	09	16	30	02	22	29	19	34	18	42	151			151
12	石井 満	22	30	22	26	24	30	19	24	24	25	135			135

## 2009年きしめん大会・HLGの部報告

今年は関東での湘南大会田んぼでの寒中杯がないので、きしめん大会が今年最初の本格的HLG競技会となった。そのせいか、例年より参加者が12名の多く楽しめた。昨年より若手の振り投げランチャーが増えて賞品は諦め気分であるが・・・。

今回はライダーの吉岡さんと同行したので、車中、夕食とも気分良く過ごせた。22日は天気図通りのヒコーキ日和となってルンルン、ここまでは良かったが、会場について着いてみると、低迷していると思っていた伊東選手が新作を並べてやる気を出していたのと、関東から子連れの石井満選手が賞品稼ぎに遠征、これは予想外でコリャアカン。その上に岡本、毛利の両選手がそろって、且つ、掛山選手が振り投げ転向と、今回悪いことがそろっていた。その上に風が穏やかでサーマルが小さい。こうなると年寄りには不利でこうなるとパワーのある者が勝つ。競技の方は案の定、好記録続出で苦心してフライオフに残っても最悪の6位の予想・・・。

ま・気を取り直して報告を・・・。伊東選手はさしてよくもなかったが高度はダントツなので面白くも何ともない。この日は、石井満選手向きの安定した気流で投げればマックスと、これも何とも面白くない。

野球投げで唯一残ったのが岡崎選手、この日絶好調で3位は立派。毛利、岡本の両選手は振り投げ完成で私は置いてきぼり。私はフライオフに残るのが精一杯でした。山本選手、298秒の7位は可哀相。振り投げに転向した掛山選手、機体は素晴らしいが投げはもう一息、でも287秒なのだ。

園田御大は264秒の9位、10位、11位には将来の大人が来て262秒、258秒も出して下位は可哀相です。ピリはガラはデカイが高度が今1つの柴田選手、これも239秒出しているの、成績は悪くないのだが・・・。大型機が圧倒的に有利ですが、HLGはどうすれば面白くなるのか、何かよいアイデアをください。

### 09年きしめん大会HLG記録 2月22日鈴鹿田んぼ、晴3度 風1～2m 60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	伊東哲男	60	60	58	60	60	60					300	107		407
2	石井 満	60	60	60	23	60	60					300	73		373
3	岡崎一郎	60	29	60	43	60	60	60				300	69		369
4	毛利 修	45	60	60	60	60	60					300	64		364
5	岡本 淳	60	60	60	60	60						300	46		346
6	平尾寿康	57	60	60	56	60	60	56	60			300	340		340
7	山本和文	0	42	38	60	60	42	60	52	58	60	298			298
8	掛山吉行	60	42	41	57	50	42	60	60	44	38	287			287
9	園田宏樹	44	37	60	31	60	60	32	40	28	38	264			264
10	岡本 隆	09	51	35	44	41	10	11	47	60	60	262			262
11	毛利航希	25	33	37	26	60	15	39	60	60	15	256			256
12	柴田登志	36	0	36	15	46	05	60	60	31	37	236			236

## お知らせ

### 第11回平城京ライトプレーン競技大会案内

1. 開催日時 2009年6月7日(日)午前8時受付、8時40分開会、9時競技開始、午後2時終了
2. 会場 「平城宮跡」緑地広場 大極殿跡付近。駐車場トイレ休憩所売店あり
3. 種目 ライトプレーンの部(ゴム5g以下) ミニクーペ & 小型混合級(ゴム5g以下)  
HLG - A(手投げグライダー) HLG - B(手投げグライダー)  
CLG(パチンコ発射グライダー) ゴム動力スケール(全副50cm、ゴム5g以下)
4. 競技方法 ライトプレーン、9時～11時30分に60秒MAXで3回飛行。  
HLG、CLGは、9時～11時30分の間に60秒MAXで10投飛行、内5投の合計。  
ゴムスケールは40秒MAXで3回飛行。  
F・O ライトプレーン 11:45～12:00まで2分MAX。再決勝は3分MAX。
5. 規定 \*ライトプレーン JMA国内級規定に準拠するが本大会の特別規定を付加する。  
機体数は3機まで。受付で確認する。個別識別記号を記入のこと。  
機体のJMA規定:全長50cmまで(DTヒューズ以外全て含む)、ゴムは露出  
ゴム重量5g未満、折畳みプロペラ禁止、翼面は片面張り(スチレン可)。  
\*CLG パチンコ発射装置:ゴムはFAIラバー1/8を1m。棒は15cmまで。  
\*HLG - A 翼幅360mm以上900mm以下、重量80g未満  
\*HLG - B 翼幅160mm以上360mm以下、重量40g未満
6. 参加申込 当日受付、参加費500円(少年無料)
7. 注意事項 ゴミは各自で持ち帰り。競技スポットでの喫煙は禁止 大極殿復元工事現場に落  
の場合大会本部に相談の事。 近鉄線路は踏切り以外横断不可。安全指導員の指  
指示に従うこと。 風向で競技中断があり得る。 埋蔵文化財の保護のためビーチ  
パラソルなどの打ち込みは禁止します。
8. 大会役員 大会委員長岩村慧一(KFC顧問)、大会競技委員長高田富造(KFC会長)  
競技委員今村利勝、岸田和義、金丸英一、園田宏樹
9. 主管団体他 京都フリーフライトクラブ、関西フリーフライトクラブ連合会、事務局今村利勝

## FF文化サロン

### 韓国製FF機の紹介

……平尾

日本では中型、大型のFFキットは皆無ですが、CFFCの会報に韓国製FFキットの記事がありましたので早速調べてみました。日本での取り扱いは岐阜にある江崎ティッシュ(プライスパンシート)で有名な江崎模型(電話・058-263-2260, FAX・058-266-4641)です。キットの種目はライトプレーンからF1A、B、Hまでと豊富ですが、詳細な内容は解らないので詳しくは江崎模型に直接問い合わせてください。在庫のない場合でも2週間ほどで届くそうです。韓国のメーカーはWOJINで、ホームページはwww.hiboramae.comです。簡単な仕様と画像が見られます。但し、日本人にはハングルが読めませんので、言葉はenglishを選んでください。

今回はグライダー(F1A、H)とゴム機(F1Bとライトプレーン)のキットを紹介します。価格も入門機として手頃だと思います。



F1Hキット・FALCON - 3 (画像で見るとF1H相当の機体)。スパン1,465mm、胴長820mm、カーボン胴、レーザーカットバルサ翼(スパーはカーボンパイプらしい)、プライスパンシート、フック金物付き、タイマーは含まず。価格不明

\* F1Aキット FALCON - 5

スパン1,820mm、胴長986mm、主翼面積32.7dm<sup>2</sup>、機体重量410g、カーボン胴、レーザーカットバルサ翼(スパーはカーボンパイプらしい)、プライスパンシート、

フック金物付き、タイマーは含まず。価格約8,000円

\* F1Aキット T - 5

スパン1,984mm、胴長1,036mm、主翼面積33.81dm<sup>2</sup>、カーボン胴、レーザーカットバルサ翼(スパーはカーボンパイプらしい)、プライスパンシート、フック金物付き、タイマーは含まず。価格約12,000円



F1Bキット R - 5

スパン1,470mm、胴長1,252mm、カーボン胴、レーザーカットバルサ翼(スパーはカーボンパイプらしい)、プライスパンシート、固定ピッチモントリオール、プロペラハブ付き、タイマーは含まず。価格約16,000円

\* ライトプレーン R - 1

スパン483mm、胴長528mm、カーボン胴、プラペラ、完全キット、価格約1,000円

\* その他パーツも扱っています。

F1B用モントリオール、LP用ゴムワインダー(1/5、1/5カウンター付き)、F1B用カーボン胴、プロペラブレード(折ペラ用21、24、27、60cm)、バルサ翼キット、カーボンパーツ(LP用?)他標準的なその他費用は、送料600円と代引き520円程度の様です。

## H L G ・ フライオフに関する提案です

……平尾

最近のH L Gはドンドン大型化してきています。2月記録会に野中さんがテストのようですが、スパン140cm、重量250gのUHLGで参加しました。これはF1Hグライダーとほぼ同じ大きさで投げるのは苦勞ですが、滑空はさすがに素晴らしく悠々と浮かんでいました。しかし、野中さんはフライオフにはこの機体は使いませんでした。また関東の石井満氏、名古屋の伊東氏ともスパン120cmの機体を開発し調整中です。さらにスパン100cm以上の機体もぞくぞくと登場する気配です。一方、野球投げH L Gの場合、スパン70cmが競技に使える限界のようで、寸法効果の不利は否めません。しかし、機体の開発を阻害するので大きさの規制はしたくないし、かと言って競技は面白くないと続かないので散々悩んできました。が、やっと閃きました。この提案はどうでしょうか。

提案 1

記録が同じ場合、より小さい機体を上位とする。例えば5人が300秒を出した場合、機体の小さい方を上位として順位を決定する。機体の大きさは厳密に決めるのではなく、機体を較べて明らかに小さい方を勝ちとする。例えば同じ様な大きさでの場合、その差が5cm以内(案)の場合は対と判断し、この場合はフライオフを行う。又、明らかに大きさが違うが、選手同士がタイムで決着を付けたいとの

意志表示をするば、その時もフライオフを行う。

この案であれば、少しは大きさを抑える効果があり、且つ、小型機を工夫する選手も出てくるとおもいますが、どうでしょうか。

## 突然のライトプレーン

……平尾

### 1. なぜか集団発狂

私がホームグラウンドにしている千葉・海浜幕張公園の仲間が昨年11月、突然集団発狂して一斉にライトプレーンを飛ばし始めた。これまでの5年ほどもっぱらパチンコ専門で、私が時々ゴム動力機をチラつかせて見せても見向きもしなかったのに、である。何が何だか解らないのだが、この突然変異でセッセとライトプレーンキットを探してきては新作を持ってくるのである。そして、いそいそと飛行調整をするのだが、キット付属の黒ゴムはすぐ切れるのでゴムが品切れとなる。近所では模型用ゴムは売っていないし、インターネットで探しても結構高いし、すぐには手に入らない。結局は私の手持ちや、仲間のF1B用の古ゴムをかき集めては提供しているが、それにも限度がある。最近ようやくゴムも仲間がまとめて購入するようになり、大分本物のゴム屋らしくなってきた。更に困るのはゴムワインダーである。はじめの頃は私のワインダーを交替で使ったり、手巻きでやっていたが、それでははかどらないし面白くない。だがゴムワインダーなんて、そんじょそこいらでは売っていないし、インターネットでは珍品で、見つかっても1個千円近くする。これまた、やむを得ず自宅のアチコチ捜して、20年前の品を修理したり調整したりして10ヶ近くを放出した。しかし、古いので壊れたり、又、公園に置き忘れて無くしたり、そのため供給が追いつかずお手上げである。ついに、自分用も無くなってきたので釣のリールを改造して1/3のワインダーを作った。早速私のリール改造ワインダーを使ってみたメンバーが、リールを買ってきて改造方法を聞きに来た。しかし、その人電気ドリルも持っていないので、やむを得ず私が改造するはめになり、加工してあげた。ここまではまあまあだったが、他のメンバーにも、この改造ワインダーが巻きやすいことがわかってしまうと次々とリールを買ってきて、ついに5個の改造を依頼される始末で、何日もかけて改造した。

こんな経過があつて3ヶ月もたつと、LPに関して様々な情報が入り出した。その1つが電動ワインダー付きキットの発見である。このキットは大分昔から評判だったようだが、過去の物でとくに手に入らなくなっていたらしい。ところが千葉ニュータウンのジョイフル・ホンダに10機ほどあるのを発見。

メーカーはアメリカのLYONAECCのEW CEで6ボルト用で値段は1,575円と格安。こいつはハイパワーで3.2mmゴムが8条まで巻けるカウンター付き。さっそく1機だけを残して全部購入し、公園のメンバーにお披露目した。しかし、キットのママではフックが付いて無くLPには使えない。これまたゴムフックを付ける改造は私担当で、注文が来てすぐ捌けた。あ・あ・どこまで行くのかLP騒動。

次は潤滑剤である。シリコンオイルが望ましいのだが、簡単には手に入らないのでシャンプーを勧めていた。ところがこいつ、長い時間使うとゴムが固まってしまうのである。辛うじて手に入りそうなのはラジコンカーのオイルダンパーシリコンであるが、近く店には売っていない。またまた、手持ちシリコンの放出である。この分では、いずれ手持ちのゴム動力関係の材料が全滅しそうである。

### 2. 改心の部・LP・ごめんなさい

さて、私の頭はまだ混乱しているが、この出来事良いこともあった。仲間が作ってきた竹ひごライトプレーンを、チョコチョコといじると見事に飛ぶのである。こんな状態で2ヶ月ほど過ぎて、私も「目から鱗」で、ようやくこれまでライトプレーンに対する考え方が間違っていたことに気が付いた。

私は、これまで竹ひごLPは飛ばないと思ひこんでいたのは、翼の張り紙を塗装したり霧を吹いたりすると、簡単に竹ひご翼がよじれるからである。だが紙を貼ったままで何もしないと簡単に飛ぶのでビ



ックリ、ビックリ。特によしだ製のライトプレーンキットは評判がイイ。設計思想は古い(とは言っても木村秀政博士設計だからな…)が、それなりに翼の調整をしてやると簡単に1分くらい飛んでしまう。だが、こんなに飛ぶのはまさしくタンゴムのおかげ。このゴムなくしてはLPはこんなに飛ばない。

去年はもっぱら手伝いに終始していたが、みんなにせかされて20年前のLPを引っ張り出して、ポロポロの紙を剥がし、真っ黒になっている竹ひごを磨き、不足のパーツを集めてLPを1機作った。

そしてみんなが見守る中、調整をしてソコソコに巻いて発航。経験とは恐ろしいもので、機体が勝手にドンドン上昇して公園の外。懸命に走っていったが、時既に遅く自動車にひかれてバラバラ。

使えたのは木のコメタルだけ。こうなると手持ちの機体もないので、新品を作らないわけにはいかないわなー、と言うことで、とうとうライトプレーンの製作である。これまで私が持っている競技機の種目はF1A、F1B、F1G、F1H、HLG-A、B、パチンコ、スケールモデルと8種目あるが、LPを入れると9種目に参加可能である。これでほとんどの競技会が参加可能となる。言うことで、石井英夫氏の図面を参考にゴム5グラムのモダンライトプレーンの製作となった。

### 3. LPの製作

先日、寒中杯の折、幸いにして沢山の公園LPを見せてもらった。私がイメージする公園LPとは、キット+程度のライトプレーンである。無論、ペラはプラペラ、翼も竹ひごが主で他に使ってもステンパーとバルサ程度。プロペラ周りも自作金属コメタル等手に入らない物は考えていない。

プラコメタルか自作木製コメタル程度。又、規制するわけではないが胴体もカーボンなど使わずに桧(ユニオン製の桧材・4×7×450成形済み、4本で189円)等手に入りやすい材料を使いたい。

デサも主としてゴムブラリ式(ゴムがゆるむと後部ゴム掛けから外れる方式)にしたいところだが、回収率から考えると尾翼ポップアップデサが望ましい。この様な考え方の機体だと、重量は25g以下に収まれば優秀な方だが、5gゴムで滞空性能2分はいけると思う。

基本の形はさすがにA-1は古すぎて、石井英夫氏のモディファイした。久しぶりにLPを作ってみると、パーツさえそろると、いとも簡単に出来るのが驚きだった。1日で1機製作は固い。

胴体は4×7(15×4の材をカッターナイフでさく)の桧を長さ48センチに切断して、ゴムフック(27センチくらい)以降のテール部分は7mmから3mmまで斜めにカンナで削る。その後全体をサンドペーパーで平滑に仕上げ、クリアーを2回ほど塗る。その胴体に小物金物(ゴムフック、水平尾翼受台、デサ索用ガイド等)を取付ける。垂直尾翼用の曲げた竹ひごを胴体に錐で穴開けし、向きを確かめながら瞬間で接着する。

プラスチックコメタルは上昇調整がしにくいので、今回は木で作る(後述参照)。プラスチックペラはブレードのバランスを取り、バリを綺麗に取ってツルツルに仕上げる。その後コメタルとペラに合わせてシャフトを曲げてペラ部分を整える。この時シャフト径は1.2以上をしたい。

主翼と水平垂直尾翼用の竹ひごをヤカンの湯気で丁寧に曲げる。この時簡単な平面図を書いておくと竹ひごを切断する時に便利である。翼型リブの型紙を厚紙で作り曲線部分を瞬間で固め、それに合わせてハードバルサ厚1.5mmからリブを必要枚数切り出す。図面に合わせてニューム管を使って竹ひご翼を組立、リブ位置の寸法を決め、印を付けて輪ゴムを上手く使ってリブを入れていく。

リブを入れたら瞬間接着剤とセメダインCで接着(セメダインCのみだと接着時間が長い)し、完成したら2回ほどクリアーを塗る。最後に翼に澱粉糊で紙張りをして、パイロンを接着する(さきにパイロンを付けると紙が貼りにくい)。パイロンはソフトバルサを瞬間で付けてクリアーを塗る。

このLPの完成重量は24gとなった。5gゴムを搭載しての翼面荷重は10g/dm<sup>2</sup>となり、決して軽い機体ではないが、HLGより簡単に作れて競技に使える。この機体はハイパイロンタイプで高度50m以上の急上昇をする。20年ぶりに作ってみると、いくつか気が付いた事があり、みなさんの役に立つかなと思って、以下思いつくままに……。

#### 4. LP製作の参考になるかどうか・・・

プロペラバランスをとる。

プラスチックプロペラは大部分左右の重さが違う。バランスを調べるには風のない所で、シャフトにプロペラを通して回してみてもどの位置に停まるかを見る。ほとんどが上下に停まるはずだ。この場合は下のブレードが重いので、このままではペラが振動して高度が取れない。そこで重い方のプロペラブレードをサンドペーパーで薄く削る方法もあるが、大抵上手くいかない。そこで軽い方のブレードにセロテープや薄い鉛を貼って水平に停まるように調整する。更にペラ全体の出っ張りを削ったり、左右の形を整えたりすると上昇高度が上がる。

プロペラシャフトの改造

キットに付いているプロペラシャフトは細いので曲がりやすい。そこで100円ショップでハンドドリル(1.0～1.5)を買ってきて、プラスチックコメタルの軸穴を1.2mm～1.5mmに広げてのシャフト交換を勧める。シャフトはラジオペンチ曲げて作らねばならないが、その時ゴムフック部分をS字に加工し、ゴムを巻いた時にゴム位置がフックのセンターに来るようにする。これで更にプロペラの振動が減少する。

木製コメタルの作成

キットのプラスチックコメタルはスラスト調整がやりにくいので、15mm×5mmの朴の木(堅い木)から長さ15mmのブロックを10ヶ程切り出し、万力で挟んでシャフト穴を開ける。道具は手もみドリルでもいいが、面倒であれば100円ショップで600円程で売っている電池式ドリルとドリル歯セットを購入し、これを使用する。穴開けは案外難しいので沢山作って、その内から程度の良い物を選ぶ。使える奴を選んで、穴に瞬間接着剤を浸透させ、その後もう一度ドリルを通す。この後コメタルに3度のダウン去らすとを付けるために前部13mm後部12mmの台形に上面を削る。次にコメタルに前方から見て右側に1mmベニヤを接着する。これでコメタルは完成である。

コメタルの取付

片面に板を張り付けたコメタルを、前部を斜めに削って胴体に糸で巻いてしばり、糸の上にセメダインCを塗る(瞬間接着剤は不可)。この後上昇調整の時用にクサビを作ってベニヤと胴体との間に挟んでおく。後は右旋回上昇するようにクサビ押し込んでスラスト量を決める。上昇が決まったら、クサビの所に瞬間接着剤を少量付けて固定する。

尾翼ホップアップデサの取付

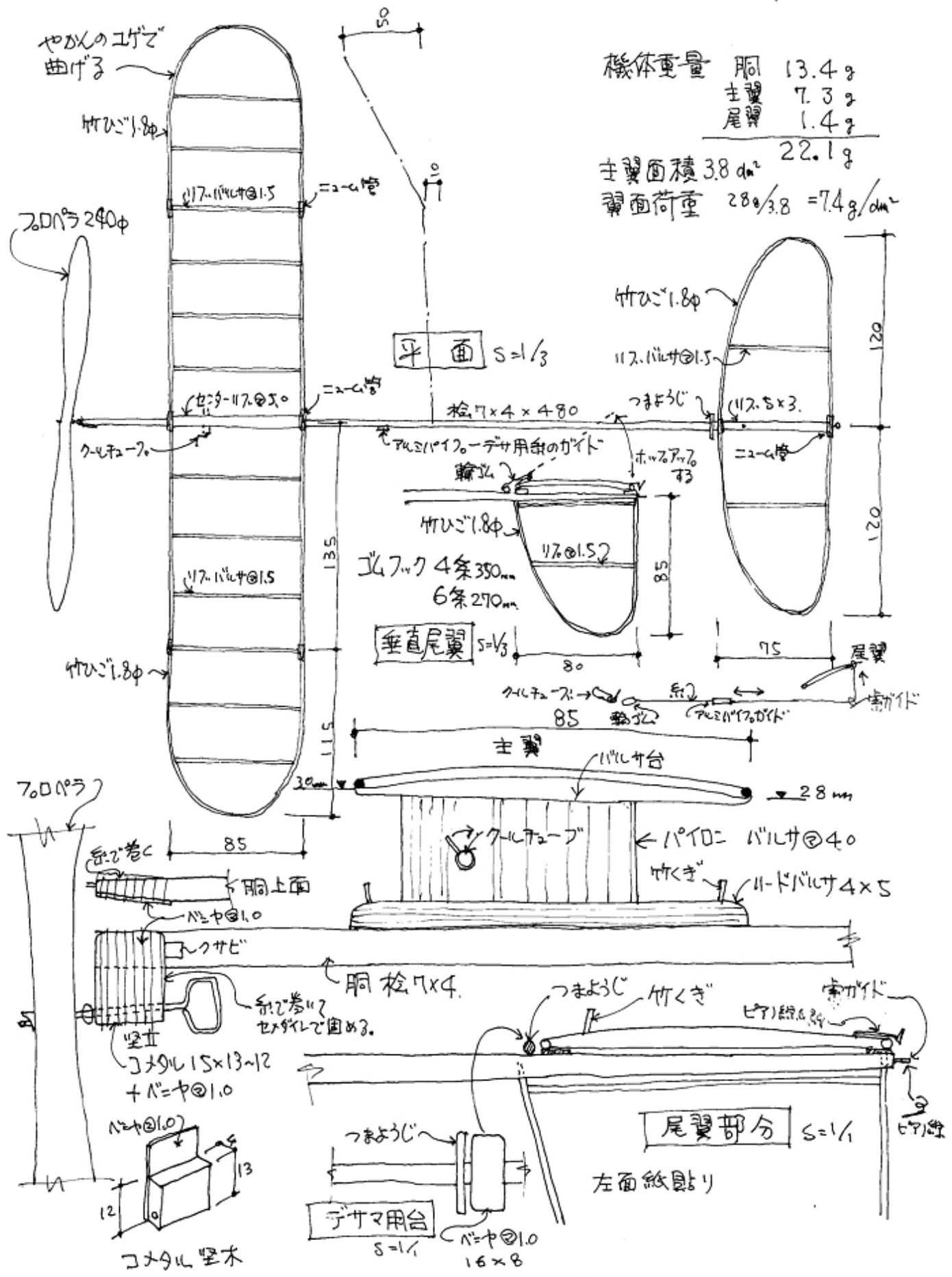
ライトプレーンと言えどもデサは必要で、特に公園用LPには必須である。公園は狭いので上手に降下させないとすぐ着木してロストする。いろいろ試みた結果、出口クールチューブを使用した尾翼ホップアップデサが、簡単な機構で軽量だし最適である。まずクールチューブは主翼パイロンに貫通する形で取り付けると、前後方向に回転するので使いやすい。次に、尾翼ホップアップの受台はまず爪楊枝の下面をペーパーで削って接着し間隔を2mm開けて巾5mmの1mmベニヤを同じく接着する。この方がゴムが掛けられるようにベニヤを切込み加工するより数段楽である。図を参照の事。

ゴムの条数

ゴムはタン5グラムと決まっているが、条数はプロペラによって4、6、8条と変化する。しかし、今回のようにプラペラ、又は出来合いの木製ペラを使う場合は4条か6条が望ましい。急上昇が好きな人は6条にすれば、約30秒で50m程の上昇をするはずである。少し緩やかに上昇させたい向きには4条にすればモーターラン40秒ほどで、50mの上昇をする。プロペラ効率からすると4条に部がありそうに思う。ま。好きずきにしてください。図面別添

公園用..... **ゴム5グラム級 ライト フォーリン**

2009/4 by H.Hirao



機体重量

胴	13.4g
主翼	7.3g
尾翼	1.4g
<b>合計</b>	<b>22.1g</b>

主翼面積 3.8 dm<sup>2</sup>  
 翼面荷重 280/3.8 = 7.4g/dm<sup>2</sup>

平面 S=1/3

垂直尾翼 S=1/3

尾翼部分 S=1/1

左面 織貼り

## 公園用 Fi 156・フィゼラーシュトルヒの製作2 (資料編)

……平尾

今回は製作編の予定であったが、片岡君よりフィゼラーシュトルヒの貴重な資料が手に入ったので急遽資料編を挟むことにした。インターネットで調べてもフィゼラーシュトルヒの資料は極めて少ない。

今回の資料は彼が30年ほど前に入手していたイギリス・アルマーク・インターナショナル発行のエアークラフトNO.8の Luftwaffe in Action、NO.4 から写真の抜粋である。フィゼラーシュトルヒの詳細が解る貴重名資料で、最も解りづらいのがエンジンのカウリングまわりとコックピットのつながりがわかる。又、この部分に主翼、主翼支柱、脚のジョイントが集中していて、その収まりが難しいのである。今回の写真で見ると、エンジンのカウリングと胴体のジョイントにパッカリ隙間があり、結構鷹揚な収まりであることがわかる。コックピットの骨組みはスチールパイプのようで、フィゼラーシュトルヒがまさしく軽飛行機であることがわかる。

まず写真1は1942年リビアでのもので、イタリアのカピロニー社製作である。この機体は砂漠仕様の全体が淡いアイボリー色の標準的な機体である。エンジンカウリングと胴体コックピットまわりのジョイントに隙間がある。又、この機体の伸縮脚のカバーは1ユニットである。コックピットに出入り口ドアは段付きの複雑な形をしている。参考までに前方右に写っているのはスツーカーである。

写真2は1942年ソ連領内の馬鹿暑い夏における機体である。エンジンカウリングが一部無いが、これは暑い時によくあった対策らしい。また前縁スラットを目一杯伸ばして、且つ、後縁フラップを一杯に下げている状態である。エンジン下に付いているのは補助燃料タンクである。この機体の脚カバーは2段になっている。コックピットまわりのガラスは全て平板で、前方センターには支柱がある。車輪が意外と小さい事がわかる。又、コックピットと主翼のジョイントと、複雑な脚まわりもこれで解る。

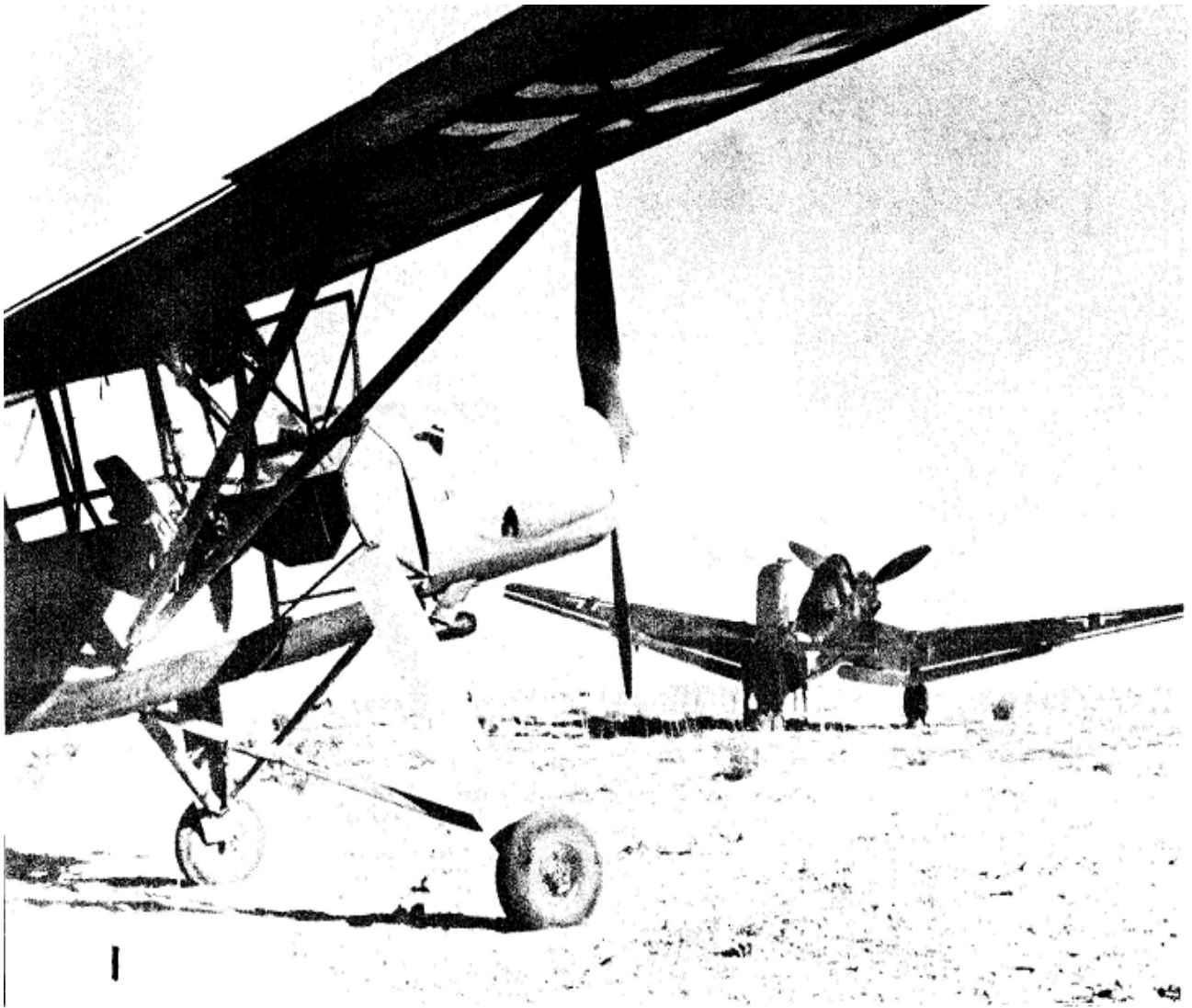
写真3は北アフリカの砂漠での、めずらしい47フィートの翼を正面から見たもの。又、この写真は風でひっくり返らないような主翼と支柱のジョイントにワイヤーで重りを下げている。カウリングの前部と複雑な支柱の様子、それと主翼に上反角が無いことがわかる。

写真4はオールホワイトの機体で1941年春のイタリアの野原における美しい機体。翼の上下面、及び胴体に赤十字マークが描かれている。前縁フラップの様子、尾翼の支柱、コックピットの形などが良く解る。写真5はこの機体は座席後部に傷病兵運搬用の扉を開けた様子である。これで見ると開閉用の金物と大変華奢な事がわかる。機体の色(この写真は白黒であるが)は主翼と胴体下部はドイツ空軍の空色、他の部分は明るいアイボリーである。

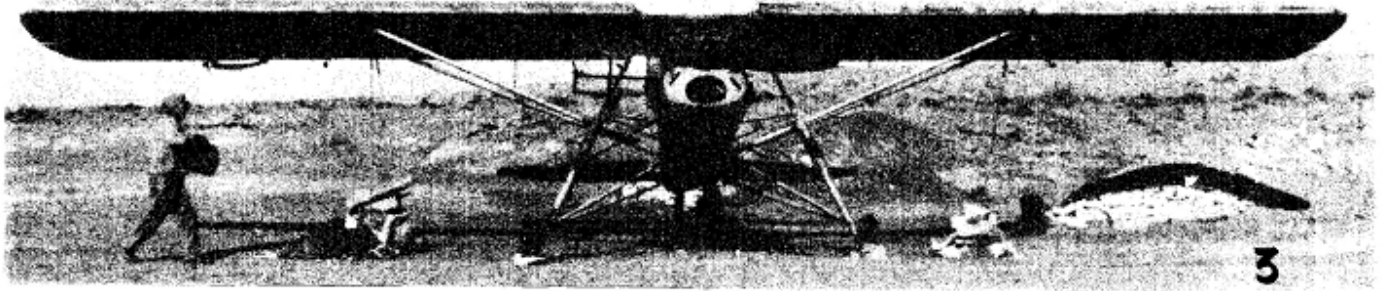
写真6はコックピットから後部を見た写真で、後部の側扉も開いている。コックピットと胴体のフレームワークが良くわかる。上部に銃座の円形ガラスが見え、後部座席は外してある。この部分に担架を入れたり臨時に人が乗ったようである。元々この機体は乱暴な使い方を想定していたので、造りは極めて丈夫だったようで、緊急時には10人近くの人が乗ったこともあるらしい。

最後に機体の色だが、迷彩色と深緑色(イタリア仕様)、及び冬仕様(淡いアイボリー)の3タイプがあるが、いずれも主翼と胴体下面はドイツ空軍の淡いグリーンで塗られている。私は軍用機っぽいのがイヤなので、今回作る場合は、冬仕様か又は赤十字仕様を考えている。様々なマークはインターネットで検索して、それをコピーするといいい。

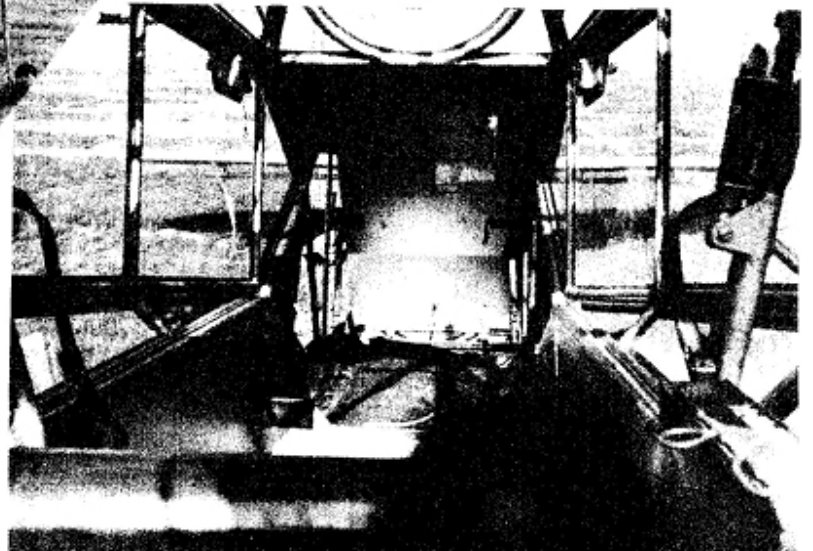
以上の資料から機体製作のノウハウを得て、模型なりに本物らしく見せる方法を考えたい。しかし、高々スパン50センチの機体であり、且つ、今回は形よりも飛ばすことが目的なので、あまり凝ったことは考えていない。以上、皆さまの機体製作の参考にして頂ければ幸いです。







← 5



7イセラ-Fil56 シュトルヒ  
写真1~6

## 雑談天国

### 水の話

……平尾

人間タカが知れているので、雑談天国もいずれボロボロになるのは解っていないながら、またまた無理をしています。タスケテ---

さて、今回もみなさん、ドキッと話す話です。これまで日本人の書いたヨーロッパの水の話調べてみるとプロ、アマチュア共、実態を知らないのか、または知っていても綺麗事に納めようとしてか真実がボケてしまってます。白人コンプレックスなのか、それともこれは日本人の特質なのか。でも本質を知らない主題がぼけて面白くないので、言うぞー。そう、恐ろしいヨーロッパの水の話です。

水の文化と言うと大げさですが、日本とヨーロッパでは相当に異なっていることは確かです。信長の時代(1500年頃)宣教師が来て、日本の文明の高さに驚いたと言う話があります。ヨーロッパは先進国なので、当時も文化レベルが高いと思いこんでいました。その前提で当時の資料を読むので、日本の文化レベルを進んだヨーロッパに相当近いと誉められたと解釈しますが、これは間違いです。

当時のヨーロッパは日本より文化レベルは低かったのです。だから驚いたのです。

#### 1. ヨーロッパの水事情

意外に思われるでしょうが、ヨーロッパは今でも水運が盛んである。ヨーロッパには高い山はアルプスとカルパチア山脈ぐらいで、あとは広大な平野である。河幅も何百メートルもあるし平野の高低差も少ないから、河の流れがゆるやかで、いくつもの国を巡ってから海に注ぐ。であるから内陸であるのにウィーンやブダペストには立派な港がある。特にパリなどは河だらけの街である。

さて、飲む水は井戸からも取れるが、大量の水は河から採るしか方法がない。現在広大なヨーロッパ大陸に住むは約3億人は河からの水を飲んで、当然ながら汚水を河にもどす。わが国においても同じ事であるが、日本の河は短いが急なので流量が多く、ヨーロッパの河と較べると自浄化能力に大きな差がある。水源に恵まれないヨーロッパでは、水は日本でもよりもずっとずっと大切なものである。

ヨーロッパの水問題は1本の川に何十もの都市が張り付いている事にあり、それを都市単位ではなく国単位で解決しなければならない。しかし、上流のスイスと下流のオランダでは水事情は全く違う。

現在ではパリの様に河の水を1度森に浸透させて伏流水を作り、それを水下で取水して浄化する等、各都市ごとに様々な努力をしている。しかし、今でも下水道(生放流)の中に上水管をぶら下げて通す等、なかなか神経が図太い。また、ヨーロッパの排水処理基準は日本よりも甘く、濾過基準もゆるいのでヨーロッパで水道水を飲む場合は度胸がいる。

さて、昔の話になるが、ヨーロッパのペストで一番有名なのは1347年~1351年のもので、この時、人口の三分の一(約2500万人)が犠牲になったと言われている。その後もペストは何度もヨーロッパを襲う。ペストはねずみの疫病で、ねずみに寄生したノミによって人間に伝染するが、これは当時ヨーロッパの衛生環境が原因である。中世ヨーロッパでは身体にノミ・シラミ・南京虫などが付いているのは当たり前だった。その害虫が身体に付かないようにする対処法は、食事をコントロールすることと考えられていた。であるから害虫の発生と不潔さとはまったく結びつかずなかつたのである。また、驚くべき事に、当時は「日光にあたること」と「風呂に入ること」が身体に良くないことだと考えられていて、フランスでは1531年にペスト条例が出され、浴場に行くことが禁止された。当時、身体を水にひたすと、毛穴が開いて病気が侵入すると考えたからである。

中世のヨーロッパの都市は城壁に囲まれていたので簡単には拡張出来ないで、建物は多層階(3,4階)となった。柱は石作りだが梁(横材)や床は木造なので、当時2階以上に便所を設ける技術はなく、上階の住民は「携帯用便器」を愛用し、夜のうちに窓から糞尿を投げ捨てていた。その為都市の道路は汚物でぬかるみ悪臭がひどかった。汚物の投げ捨てを何度禁止してもダメなので、街で

屎尿清掃人夫を雇って日の出までにかたづけさせた。しかし、日曜日(休息日)は働いてはいけないので、道路上の糞尿は月曜日の朝までそのまま、日々中あまりに臭いので香水が発達した。

また、汚物を踏まないためにハイヒールが考案され、投げ捨てられる汚物を浴びないためにイギリス紳士が外套を着用することになり、降りかかる屎尿から護る為に女性は歩道の内側を歩かせるマナーが生まれた。又、フランスのルイ14世は、あまりの臭さにベルサイユ宮殿を創ってパリを逃げ出したと言われている。そのベルサイユ宮殿には豪華に装飾され椅子式トイレ(便所ではない)があったそうだが、数が少なかったので貴族淑女達は庭で用を足した。そのため舞踏会の後、宮殿には糞尿が溢れ翌日の掃除が大変であった。又、当時の紳士淑女の服は月1回洗濯できれば良い方で、すり切れていたり服が汚れてカビが生えるのは当たり前だった。又、当時の貴族は風呂やシャワーを利用しなかったため、体臭や衣服の悪臭は、これまた香水でごまかした。

ずいとのって、ついでの話、ネクタイとワイシャツの折返し袖口(取り外し式)の話をして。ネクタイは今年FF世界選があるクロアチアが発祥の地と言われているが、何時からか食事の時ナプキンとして使われたと言う。又、ワイシャツの袖口もこれで口を拭いた(その為の交換式)ので、ネクタイも袖口もどす黒く光っていて汚かったらしい。16世頃のヨーロッパには食事の時、まだフォークはなく本物のナイフのみを使っていた。だから、食事の時喧嘩になると、すぐナイフでチャリンチャリンとなって物騒だったという。日本ではその頃すでに木の箸が使われていたので、食事の時完全な平和が保たれていて来日した宣教師は、その事にいたく感心したらしい。

話戻って、で屎尿はどこに捨てられたか。当然ながら下水道である。そしてそれが集まってパリの場合はセーヌ川、ロンドンの場合はテムズ川に流された。そして飲み水も又、セーヌ川やテムズ川から採って浄化せずに飲んでいたのである。河川上流の都市はまだしも、下流の都市はこの水を濾過もせずに飲んでいたので、伝染病が蔓延するのは当たり前で、ヨーロッパ中にはまたたく間にペストやコレラが広がるのは当たり前で、多くの死者が出ている。

ヨーロッパでは、ほとんどの河はスイスや東欧から流れ出て、ドイツ、オーストリー、フランス、ロシア、ベルギー、オランダ等と沢山の国を通過してから海にそそぐ。しかも、海に面しない国や面していても海岸線が短い国が多い。その反対にオランダのような河口の国では、当時から大きな脅威として捉えられているのが水質汚染の問題である。スイスとフランスに源を発するライン川とマース川は途中でドイツやベルギーを通過して、土砂には様々なものが混ざってオランダの河口に注ぎ込む。と言うことで、最後は上流で投棄されるゴミや汚水は最後にすべてオランダの所有物となるのである。

以上のようなことで、ヨーロッパでは水に対する考え方が日本とまるで違います。その1つが風呂で、日本ではお湯につかるのが一般的です。しかし、昔はヨーロッパでは貴族しか入浴が出来ませんでした。更に驚いたことに水で身体を洗うのが一般的になったのはせいぜい20世紀になってからです。今でも水は貴重品ですから、お湯につからずシャワーが主流なのです。

## 2. 日本の衛生事情

さて、日本ではどうだったのか。鎌倉時代になって人の糞尿を下肥(肥料)として使用するようになり、汲み取り式便所が登場します。その後、武士の時代、書院造りが現れるようになってトイレは住居の一部に組み込まれるようになったのは、いつ襲われるかもしれないという安全上の理由からであるといわれています。中世の日本は、豊富な水や四季折々の気候の変化や、季節風、そして台風が自然の循環を促進したこともあって、衛生状態は格段に良かった。特に日本の田舎の衛生状態は優れていて、水に余裕のある生活と日本人のきれい好きが原因していると思われる。

江戸末期、ヨーロッパ人は、簡素ながら清潔な日本の家、風呂好きな民族、そして上は大名から下は農民、漁民に至るまで同じような衛生観念を持っていることに驚いている。事実、日本ではヨーロッパのペストのような歴史的な疫病の大流行というのがなかったが、それはすでに中世からかなり衛生



的だったことが理由である。

江戸時代に入ると、糞尿のほとんどすべてが下肥として使用されるようになり、江戸では、近郷の農家が野菜と交換に争って糞尿を汲み取らせてもらうようになります。また、糞尿は商品として流通するようになり、専門の汲み取り業者によって、江戸の糞尿は河川を利用して、関東各地へ肥船で運びだされました。当時の江戸が人口100万人を超える世界最大の都市に成長し、かつ極めて清潔に保たれた背景には、始末に困る糞尿を下肥として使用し、農業の生産性を高める循環システムが確立されたためである。明治時代にイギリス人が来てこの循環システムにいたく感心し絶賛している。

日本人からすればこんな事に感心するのは変な話であるが、糞尿の都市パリやロンドンから来た欧州人からすれば、ビックリするほど清潔な東京に驚いて当然である。現在なお、このシステムは見直されて低開発国に採り入れられているのだ。江戸時代に、このような循環システムを可能にしたのは、軽くて丈夫で安価な「桶」という液体運搬容器が開発されたからです。

### 3. 水のその後

日本は山岳地が80%で、周囲は海ですから何処の都市でも綺麗な水が飲めて、汚水も浄化能力高い河や海に流せます。水に関しては日本は世界で最高に恵まれた国で、ヨーロッパの水問題は我々には感覚的に信じられない出来事です。現在でも、ヨーロッパでは飲水は河から取って汚水は海、又は川に流ししか方法がありません。

現在の様な污水处理装置や浄化装置が出来たのはせいぜい100年前で、その前は生放流ですから、地理的条件から先進国・ヨーロッパの衛生環境はものすごいものでした。映画「第3の男」に出てくる大下水道は、当ても今も生放流ですから、あれはクサイ映画なのです。

ヨーロッパで「上水は澄んだ下水である」と言われています。例えばあの美しいスイスで、現在でも浄化装置があるとはいえ、各ホテルともレマン湖畔から350mの所に汚水を流して、1000mの位置で飲料水を取っています。ヨーロッパの河は編み目のように国から国につながっていて、現在でも大きな船が航行していて水運が盛んです。各国はここから飲み水を取って、汚水をここに流します。

このような環境で1,000年以上ヨーロッパの人々は生きてきたのです。ですから、日本人と違って心身共に丈夫な人間が完成したのでしょうか。こう考えると日本の美しいモラルは、美しい水を飲んで来たのではないのでしょうか。

またまた、余談ですが、題は忘れましたが芥川龍之介の短編の中に「うんこ」の話があります。

平安時代ある男がある女を好きになり、懸命に迫るのですが女は全く相手にしません。そこで男は何とかして嫌いになろうと考えます。当時、排便排尿は12単衣の中でオマル(漆塗りの便器)にして、それを下女が処理をするのが一般的でした。そこで男は、その女のオマルを奪って中を見ればゲツリして嫌いになれると考え、それを実行します。男が奪ったオマルを持ち帰ってそっと蓋を開けると、中に黄色い液体と長細い個体が浮いていました。ところがそれが素晴らしく良い匂いがするのです。

そこで男は浮いている個体をそっとつかんで、噛んでみました。すると沈香の匂いが口いっぱいに広がります。男は「ああ、お前は私を殺した」。

この手の話は沢山ありますが1、2例をあげると石坂洋次郎「石中先生行状記」、火野葦平「糞尿譚」があります、面白いこと請け合いです。一読を……。

注：1部引用した資料と参考文献

ヨーロッパの衛生的生活・京都産業大学文化学部国際文化学科 中野洋子

2005年度版環境教科書・武田邦彦(中部大学)

名水資料・名古屋市上下水道局

## 編集後記

……平尾

\* 会報の購読会員は5年ほど前から少しずつ増えて、現在は福島、東京、千葉、神奈川、名古屋、和歌山、大阪等でおおよそ10名ほどいらっしゃいます。インターネットで知って申込む方は少なく、各地の競技会で申し込まれる方が大部分です。これらの方はインターネット環境(この言葉は大嫌い…)のない方が多く、印刷物を期待しておられるものと解釈しています。プリントして郵送する総数は80部以下に押さえています。インターネット上でも無料公開しています。会報へのアクセス数は平均1,000ですから立派なものです。昔はKFC会報がありました。廃刊になって久しく、FF模型飛行機界の「読物」が少ないのが原因だと思えます。現在各クラブの会報はYSF、CFFCとランチャーズの3誌のみのようです。

ランチャーズ会報は前身のCHLGで1979年1月初版発行、ランチャーズになったの1号は80年1月ですから、それからでも29年になります。現在まで継続している会報としては多分日本FF界で最も古いでしょう。

現在のクラブ会報のあり方は難しく、競技会、記録会の報告のみでは面白くない。かといってヒコーキ関係の記事のみにしぼると、ネタが少なく毎回苦労するところです。投稿してください。

\* 5年ほど前からランチャーズカップは大理石製ですが、これは広島の大磯で見つけて新幹線で担いで帰ってきた品です。パキスタンのオニックス(半透明な大理石)製で日本で作ると2000円は下らないでしょう。しかし、数年前から品切で店と交渉しましたが結局入手不可となり、残念ながら今年3月分が最後となります。この大理石カップも残り少なくなってきた昨年頃から、私は焦りました。他の競技では優勝カップがありますが、HLGを30年もやっているのに、私はこのカップを1ヶも持ってないのです。無くなる前に騙しても取りたい。しかし、どうすれば騙せるのか…。

野球投げHLGの時代第3全盛期、私はとっくに峠を過ぎてガンガンの下り坂、昔の相沢氏から始まって関沢、吉田、井村、天敵菅野等各選手が易々とカップを持っていくのに私に、望はありませんでした。ところがUHLGの時代になって、ロートルの春山さんが登場しカップ持っていくのです。

アレ、これヒョットしたら取れるかも…と思いはじめてからモンモン5年。まず2007年の3月にフライオフに残りでも決着着かず最後は天敵菅野選手とのジャンケン1ヶ取得。しかしこれスッキリしない。

そして昨年秋グリーンパークでのHLG-B競技で、これならヒコーキを細工すると何とかなんと準備し、08年10月にやっと取得、アア、長い年月でした。09年4月からはガラス製に変わります。

さて、皆さんはピンと来ないでしょうが、ランチャーズカップを取るのとは他のカップを取るのより難しいのです。ランチャーズでは「技」よりも「力」が重要で、特に「荒々しい力」が必要なのです。バーバリアンが尊いランチャーズなのです。ガンバレ・筋肉モリモリ、ランチャーズ……。

\* もう早春ですが、やがて田んぼに水が入りヒコーキ屋苦難の時が来ます。この時期、若い頃は製作に勤しむ体力がありましたが、その力はすでに失せて、せいぜい作ることを考えるばかりです。じっくり考えるのでスゴイ物が出来るか、イヤイヤ毎日時間はありますが、そんなこまごま事になりません。

「至る所青山有り」ですが、年を取ると「至る所青山無し」になります。